

健康社会と空間・まちづくりシンポジウム

<プログラム内容報告>

■ 開会挨拶

株式会社竹中工務店 取締役社長 宮下正裕

超高齢社会を迎える中で、「2025年問題」が迫っており、「健康寿命」をいかに伸ばしていくかは、社会的課題の解決のみならず、活力ある社会づくりの観点からも重要な課題となっている。その中で、企業視点においては、従業員の「健康」や「働き方」が整い、効率的・効果的に「成果」に結び付く環境や、行動を支援する仕組みをつくっていくことが重要な経営課題である。今後、一人ひとりの

「健康」「いきいき働く度合い」「生産性」が相乗的に高まる方法論・仕組みを研究・検討し、多くのビジネスパーソンの方々とその考え方を共有するとともに、企業経営に取り入れていくためにも、今回のシンポジウムではその可能性・方法論について議論していきたい。



開会挨拶をする宮下社長

■ 健康コンセプトについて

千葉大学予防医学センター 原裕介 特任准教授

健康とは、人の視点から空間を見直し、健康に暮らせるスペースを問い直そうというプロジェクトである。「交流」「身体活動」「感性」の3点の軸で「健康なまちづくり」を目指していくには、「空間デザイン」「プログラム」「分析・評価」のアクションを行い、サイクルを回すことが重要である、と考えている。

健康という大きなテーマを、現在は予防医学×建築という切り口で検討しているが、



講演される原特任准教授

プロジェクトの進行で様々な分野・視点が入らなければこの研究は進まない。よって、是非新しい展開につながるお力添えを頂きたい。

■ 基調講演 「ワーク・エンゲイジメント：健康でいきいきと働ける社会をめざして」

北里大学一般教育部 人間科学教育センター 島津明人 教授

健康でいきいきと働く社会に向けて、「空間・まちづくり」に注目すると、オフィス環境・生活環境の両面での、ポジティブなスピルオーバーの促進・ネガティブなスピルオーバーの抑制がポイントとなってくる。加えて近年、「強みをのばす」という観点を取り入れたメンタルヘルス対策の推奨やサンドイッチ世代のワーク・ライフ・バランスの検討、適度な休息の推奨等、働き方に対する考えが変化しつつある。今後健康でいきいきと働くためにも、これらの考えを包括させた、ワーク・エンゲイジメント溢れる空間・まちづくりが求められる。



講演される島津教授



同左

■ 招待講演

「サイボウズの社内事例から読み取る次世代ワークスタイルとオフィスの考え方」

サイボウズ株式会社 ビジネスマーケティング本部/ワークスタイルエバンジェリスト

和田武訓 氏

サイボウズ株式会社は、2005年に年間離職率が28%となった。これを機に、100人いれば100通りの人事制度をコンセプトに1人1人に合った働き方の実現に取り組んできた。「選択型人事制度」や「バーチャルオフィスと新しいリアルオフィスの活用概念」が誕生し、離職率は3%台となった。

なぜここまで下がったか、それは多様性を重視しながら、多くのメンバーへ情報発信し多くの共感を得ながら業務を行う風土が根底にあったからである。そのようなワークスタイルへ変革・実現するためには、「風土」「制度」「ツール」の3点が必要である。



講演される和田氏



同左

■ パネルディスカッション

「健康をもたらす空間・まちづくりと新たなワーク&ライフスタイル

～多様な視点から考える、これからの空間・まち～

パネリスト 島津明人 教授 / 和田武訓 氏 / 嵯峨生馬 氏 / 近藤克則 教授 /
原裕介 特任准教授 / 石川敦雄 氏

モデレーター 花里真道 准教授

1. パネルディスカッションに先立ち、三名の方からそれぞれショートプレゼンテーションを頂いた。
 - 嵯峨氏からは、仕事で培った経験・スキルを生かし社会貢献活動を行う「プロボノ」についてご講演頂き、プロボノは、仕事を前向きに捉えられるようになる1つの手段である、という点を認識できた。
 - 近藤教授からは、「人生100年時代の健康なまちづくり JAGESプロジェクトの知見から」という題でご講演頂き、従来の1次予防だけでなく、地域・社会環境の整備や地域とつながることで健康になる「0次予防」の重要性を把握することができた。
 - また、石川氏は「オフィス環境・オフィス内行動と健康」というテーマで、竹中工務店の事業所で行った調査の結果概要について講演された。
2. パネルディスカッションでは、はじめにオフィス環境について「従来のオフィス環境から越境することが大切なので、例えばオフィスの身近に、会社の縁側的な空間・社会があってもいいのではないか」と提案された。また、オフィスの時間・空間側面については、「いかにして、リアルオフィスとバーチャルオフィスの明確な差・折り合いをつけられるか」「リアルオフィスでしかできないことや、バーチャルオフィスにおける情報セキュリティ障壁への

対策として何があるか」などといった議論がなされた。

- 次に、人と人がコミュニケーションを持つ意味は何か、というテーマでディスカッションが進んだ。「コミュニケーションをとることによる恩恵は感じにくい、ポジティブな力を備えているので、促進するための環境設計が求められている」という指摘が出た。これについて、「コミュニケーションの阻害要因は『距離』にあるので、アクセスの良さが重要となる」「オフィスでは、心理的距離を近づけるレイアウトや、心理的報酬を受けやすいポジティブなフィードバックが重要になってくる」といった意見が出た。
- 最後に、これからの健康なまちづくりへの期待や連携の在り方についてコメントを頂いた。



講演される嵯峨氏



講演される近藤教授



講演される石川氏



パネルディスカッションの様子



発言される和田氏（右から2番目）



発言される嵯峨氏（中央）



モデレーターの花里准教授

■ 閉会挨拶

千葉大学予防医学センター教授・国立長寿医療研究センター老年学評価研究部長

近藤克則氏

本日のシンポジウムを通じ、社会が色々な意味で転換を迎えていると感じた。職業人としての自分だけではなく、家庭人・地域に貢献する自分等、多様な選択肢が求められ、その支えとなる技術・仕組みが増えてきている。それを使い新しいモデルを、実験しながら作っていくフェーズに差し掛かっている。そのためにも、社内のチームワークを重視することに加え、自分の一貫したアイデンティティは何かを考えられる、内省しやすい環境が



閉会挨拶をする近藤教授

新しい時代では大事である、ということを強く認識できた。

これからも、人生100年時代という新しい時代をサポートする、「生きる場所をつくる」研究を進めて参りたい。また、研究にあたり2者だけでは力が足りないので、皆様と共に新しい社会をつくる事が出来ればと思う。